

[記載例]

第1号様式の別紙1

地域づくり総合支援事業（サポート事業）計画（変更計画）書

（※太線内は記入しないで下さい）

年度	22	整理番号				提出年月日	平成22年 2月16日
個別事業名	〇〇の森・××の川・□□の海の交流事業						
民間団体・市町村・地域コミュニティ組織名	△△実行委員会						
構成団体名(注)	◇◇の会(〇〇市)、☆☆地域づくり会(△△町)、▽▽自然の会(××村)						
民間団体の場合発足年	昭和・平成 14年						

（注）実行委員会など複数の団体から構成されている場合に記載してください。

1 事業の計画概要

- (1) 一般枠 過疎中山間地域集落等活性化枠
 (2) ソフト事業 ハード事業
 (3) 集落等再生計画策定事業 それ以外

事業内容	環境保全に対する意識の向上、体験事業を通じた地域資源の再認識を図るため、××川の源流に位置している▽▽町の△△地に、流域の地域住民ボランティアによる広葉樹（ブナ・ナラなど1,000本）植林事業と小・中学生を対象にした「川」での体験事業（生態調査事業：インストラクター□□自然の会〇〇氏）及び講演事業（テーマ：「川との暮らし」講師：××地区△△氏）を実施する。 また、流域地区が一体となった地域づくり活動を進めるため、上流地域と下流地域との交流事業（××の川沿い踏破事業：上流から下流までの各地域の住民によるたすきりレー）を実施する。	補助金を要望して実施する年度の事業計画	平成22年度	広葉樹植林事業(〇ha)、講演事業(森をテーマ)、交流事業(〇〇の森横断ツアー事業)の実施		
		補助金を要望して実施する年度の事業計画	平成23年度	広葉樹植林事業(〇ha)、体験事業(生態調査事業)、講演事業(川をテーマ)、交流事業(××の川沿い踏破事業)の実施、交流ネットワーク組織設立準備		
		補助金を要望して実施する年度の事業計画	平成24年度	広葉樹植林事業(〇ha)、体験事業(探検事業)、交流事業(□□の海魚釣り事業)、交流ネットワーク組織設立準備		
		補助金終了年度以降の事業計画等(資金計画を含む)		(補助の年度だけ事業を実施予定の場合は、その理由) ①広葉樹植林事業の継続実施 ②流域内の地域づくり団体のネットワーク組織を設立する。 ③流域外にも対象者を広げるため、構成団体の拡充を進める。 ④自主財源の確保により、NPO法人の取得を進める。		
事業計画期間		平成22年 4月 1日 ~ 平成23年 3月31日				
事業費等(注)	補助金の要望(予定)年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	事業費(千円)(a)		3,000	2,111	2,000	
	財源内訳	自己財源	市町村からの補助金		400	300
		(b)	協賛金等			200
	総合支援事業補助金(c)		1,000	511	500	
補助金依存率(c/a)		2,000	1,200	1,000		
		66.6%	56.8%	50.0%		
財産の取得内容	(※ハード事業・50万円以上の備品等の購入がある場合のみ記載してください。) ・施設、備品等の管理内容					

（注）今年度の具体的な事業内容及び補助対象事業費に関する積算内訳は、別紙に記載してください。

また、継続事業の場合、前年度事業費等は実績額で記載してください。

過疎・中山間地域集落等活性化枠の集落等再生計画策定事業の場合は、事業内容の欄に、計画の検討過程について詳細に記載願います。（検討時期、場所、検討メンバー、テーマ等）

2 事業の広域性又は先駆性

広域性：××川の流域沿い(〇〇市、△△町、××村)の住民を対象者とし、各事業の実施場所も××川の流域沿いで実施する。また、××川の流域沿いの市町村で地域づくり活動を積極的に実施している団体により事業を実施することとした。事業の実施にあたっては、構成団体から各市町村の地域づくり団体に協力を求め、流域が一体となって事業を進めることとしている。

(注) どのような点で広域性又は先駆性があるか記載してください。過疎・中山間地域集落等活性化枠の場合は、記載不要

3 事業実施の理由及び目標

(1) 事業を実施する理由	一市町村内だけの取り組みだけでは効果の現れにくい環境保全を図るための課題(上流地域と下流地域との連携不足)に対して、流域の市町村における住民ボランティアや地域づくり団体の連携によりその課題を克服するとともに地域づくり団体や住民の広域的ネットワークを作りたかった。
(2) 事業の目標	(事業の実施によって、何をどのような状態にしたいのか?) ①流域の住民による環境保全のためのグループが立ち上がる。 ②ボランティア団体や地域づくり団体のネットワーク準備会が立ち上がり、××川の流域に加え、〇〇川の流域の市町村との植林事業、体験事業実施のための検討が始まる。
(3) 事業の地域振興上の効果	(事業の実施によって、地域振興上どのような効果があると予想しているのか?) 【環境保全分野】 ①流域の住民による自主的な環境保全運動が始まる。 ②住民・ボランティア団体・地域づくり団体のネットワーク化が図られ、広域的な地域づくり活動が展開される。
(4) 前年度に行った事業の効果と課題 (※継続事業の場合)	これまでの事業により、ネットワーク組織の必要性が高まったため、設立のための各種準備が必要である。
(5) 前年度より発展的な部分 (※継続事業の場合)	自主財源によるネットワーク組織の設立を見据えた検討会を設置する。

4 事業の目標達成度を把握するための指標名及び数値

項 目	左の目標及び効果を把握するための指標名及び数値
目標の達成度を把握するために適当な数値 指標名 (その1)	指標名 (植林事業・体験事業・講演事業・交流事業における参加者総数)
<input type="checkbox"/> 順調に達成された場合の数値	(参加者総数) が (300 人) 以上
<input type="checkbox"/> ほぼ順調に達成された場合の数値	(参加者総数) が (250~300 人)
<input type="checkbox"/> 順調には達成されなかった場合の数値	(参加者総数) が (250 人) 以下
目標の達成度を把握するために適当な数値 指標名 (その2)	指標名 (準備会に参加している地域づくり団体数)
<input type="checkbox"/> 順調に達成された場合の数値	(団体数) が (20 団体) 以上
<input type="checkbox"/> ほぼ順調に達成された場合の数値	(団体数) が (15 ~ 20 団体)
<input type="checkbox"/> 順調には達成されなかった場合の数値	(団体数) が (15 団体) 以下

(注) 過疎・中山間地域集落等活性化枠の場合は、記載不要。

収支予算書（記載例）

（事業主体名） _____ 実行委員会

〔収入〕

（単位：円）

費 目	金 額	内 訳
県補助金	1,200,000	地域づくり総合支援事業（サポート事業）補助金
市町村補助金	400,000	町補助金
自己財源	511,000	
その他		協賛金等
合 計	2,111,000	

〔支出〕

費 目	予 算 額	内 訳
報償費	27,000	（体験事業） @9,000 × 3回 = 27,000円
備品購入費	500,000	（体験事業）プロジェクター式 500,000円
諸経費	1,489,800	
旅費	94,200	（交流事業）会津～郡山 @1,600 × 3回 = 4,800円 （体験事業）会津～東京 @ (11,800 + 18,000) × 3回 = 89,400円
消耗品費	800,000	生態調査キット @ × 個 = @ × 個 = @ × 個 = @ × 個 =
印刷製本費	494,300	チラシ印刷 @10 × 10000枚 = 100,000 ポスター印刷 @200 × 1000枚 = 200,000 @ × =
通信運搬費	80,000	@80 × 1000通 = 80,000
会場設営費	115,500	会場設営費 105,000 器具借り上げ料 10,500
合 計	2,111,000	

報償費、委託料、工事請負費、備品購入費、諸経費（旅費、消耗品費、燃料費、印刷製本費、通信運搬費、使用料及び賃借料等）の別により区分して計上してください。対象事業を小事業毎に区分する場合も、これらの経費毎に仕分けしてください。